

おかやま生体信号研究会 第13回例会のご案内

日時：12月21日（金） 13：30～17：00

場所：場所：岡山県立大学（岡山県総社市窪木111）学部共通棟（北）1F 8102 講義室

◎アクセス→ http://www.oka-pu.ac.jp/?page_id=1150

※学部共通棟（北）の場所は、正門守衛所でお尋ねください。

後援：ハートフルビジネスおかやま

【プログラム】

☆開会挨拶（13:30～13:40） おかやま生体信号研究会会長 則次俊郎
（講演会）

◆講演1（13:40 - 14:40）

「注意生成や感覚記憶におけるヒト体性感覚皮質の階層性について」

岡山県立大学 スポーツシステム工学科 教授・学科長 濱田泰一 氏

体性感覚における情報処理は、1次及びその上位皮質である2次皮質で行われる。刺激により誘発される皮質活動のプロパティは両皮質で異なる。本講演では、超伝導センサーであるSQUIDを用いて計測された脳活動を解析し、私たちが対象に注意を向ける場合と記憶内容が意識に上がらないような短い時間の記憶である感覚記憶に関わる1次及び2次皮質の活動を比較することにより、体性感覚野における情報処理の皮質階層性について紹介する。

◆講演2（14:40-15:20）

「上肢の運動制御における左右差について」

岡山県立大学 スポーツシステム工学科 助教 大山剛史 氏

ヒトには利き手があり、一般的には利き手の方が精緻な運動ができると考えられている。ところが最近の研究において左右の腕による運動の違いは単なる巧緻性の違いではなく、得意な運動タスクを特化させたものであると考えられ始めてきている。利き手と関連したヒトの運動制御における左右差に関する先行研究の紹介と、視覚情報の遅れ時間の処理が左右の腕で異なるという予想のもとで筆者らが最近行った実験について発表する。

〔休憩・名刺交換 15:20 - 15:35〕

◆講演3（15:35 - 16:15）

「視覚的顕著性に基づく注視の誘導と推定」

岡山県立大学 情報通信工学科 助教 滝本裕則 氏

近年、人間の視覚的注意に関する様々な計算モデルが提案されている。本講演では、これまでの視覚的注意モデル化の動向と課題について紹介する。また、我々が提案する視覚的顕著性に基づく注視誘導のための誘目性モデルと、人の行動に基づくトップダウン型注視（興味）推定技術について紹介する。

◆講演4（16:15-16:55）

「“筋電計”を軸とした製品開発の経緯と課題」

メディエリアサポート企業組合 代表理事 国里光博 氏

メディエリアサポート企業組合は平成15年に設立。岡山リサーチパークインキュベーションセン

ターに入居し、医療機器の企画・開発・販売をしている『ベンチャー企業』です。岡山県下の大学のシーズを活用し、オリジナルの“筋電計”製品の開発に到達、全国へ販売展開をしています。本講演では、「製品化」という事、「医療機器として市場に売る」という事、そして「事業として成り立たせる」事の難しさをお話いただきます。

☆閉会挨拶（16:55－17:00）

【参加申込み】

下記申込先に、以下の内容をメールまたはFAXでご連絡ください。

※このメールへの返信（湯浅宛）でも結構です。

◇件名： 12/21(金)「おかやま生体信号研究会」◇

- ・ 所属
- ・ お名前
- ・ 連絡先（メールアドレスまたは電話番号）
（申込先）

岡山県立大学 情報工学部 情報システム工学科

准教授 山崎大河

E-mail: taiga@cse.oka-pu.ac.jp ,